

民報あばしり

NO.1082

2016.8.21

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二、四四五八
F 四三二、四四五七



コスモス

ごみ問題で集中審査!

文教民生委員会が16日午前10時から開かれ、ごみ問題で集中審査を行いました。

審査の中で、処分場への持ち込み料金について、平成27年度で34,014台が搬入し、平均で48kgであり、うち100kgを超える車両は3,488台と約1割である。

改定案では、「事業系の方が料金が低くなり、また一般市民と事業者の判断をする基準がない」ことも明らかになりました。料金を高くすることで持ち込み車両の抑制につながらないこと

松浦市議会 審判メシ



共産党と後援会は、この間、市の生活環境課の担当者による「まちづくり宅配トーク」を開催して、市民の声を聞いています。

料金は高く、不安の声が上がっています。料金算定に当たっては、収集埋立管理経費、起債償還額の3分の1を市民負担に設定しているため、結果として、生ごみと容器・包装リサイクルプラスチックが1.6円、一般ごみ3.2円となり、市民負担割合を4分の1、5分の1にした割増、紙おむつは分別し埋立てになり、低所得世帯や子育て世帯、要介護者のいる世帯で

平和な日本を築くために 全力を挙げます!

71年目となる終戦記念日(敗戦の日)の8月15日、共産党の松浦敏司議員は毎年行っている宣伝を市内5カ所で行いました。



雨の中、平和を訴える松浦敏司市議

『平和憲法』のもと世界と歩んできました。」と述べ、「もし南スーダンで武器を使用するならば自衛隊員が『殺し殺される事態になる』危険は現実のものとなります。安倍政権の暴走を止め、平和な日本を築くために全力をあげます。みなさんのご支援をよろしくお願います。」と台風通過中の雨の中、カッパを着て力強く訴えていました。

個人宅で「まちづくり宅配トーク」開催

日本共産党西地域後援会は、大曲の個人宅を借りて12日近所の7人でごみ、料金等で「宅配トーク」を開催しました。市の担当者の話を聞いても「1回じゃわからない」の意見もあり、市の担当者も「決まった段階で説明会を開きます。家から離れられない方がいれば、少人数でも伺いますので声をかけて下さい」と話していました。松浦議員も駆けつけて熱心に耳を傾けていました。

流水

8月といえば必ず思い出すことがある。20万人以上が死んだ広島、長崎の原爆投下、そして経験したことのない虚無感を味わった終戦。その時、私は12歳だった▼71年前の8月15日、この日の空は雲一つない晴れ渡った青空だったがその日まで空を仰ぐことすら忘れ、お国のために戦争に勝つためにと家族と別れ学童疎開の地で荒れ地を耕し一生懸命下を向いてさつまいもや豆類を植えていた

▼先日、友人から馬鈴薯をいただいた。台所でさて、どんな料理にしようかと考えているとふと終戦の日が頭をかすめた。そうだったね。あの日は先生がラジオを天井から吊るし「12時に天皇陛下の大切なお話があるからみんなできり聞きするように、昼食は少し早めに済ませて玉音放送を待ちましょう。」といわれた▼早めに済ませた昼食とは小さなアルミの茶碗に直径2センチ×2.5センチの湯がいた皮付きの小さなじゃが芋が3つ。1つ食べてみるとえぐくて苦い。それでも食糧不足でいつも空腹を抱えている学童たちは黙って食べていたが私は食べられなかった。そして聞いた天皇陛下のお言葉、私には意味は解らなかつたが先生たちが号泣しているのを見て戦争は負けて終わつたのだと知った▼戦争の悲惨さや怖さと共に馬鈴薯も嫌いなものの一つになつてしまったが北海道のおいもはどんな料理にしてもおいしいと思うようになった。(U)